

ものづくりカレッジプロジェクト

「学生と考える 産学連携ワークショップ」

第三部ワークショップの結果について

ワークショップの趣旨

大学生、企業経営者、若手従業員、大学教職員といった様々な立場から、就職等に関するテーマでディスカッションを行うことで、認識ギャップの解消を図るほか、前向きなアイデアを生み出し、今後の事業展開に役立てるため実施したもの。

概要

グループ内構成	大学生2～3人 / 企業代表者1～2人 / 若手従業員1～2人 / 大学教職員1名 の 計7人
グループ数	全7グループ
進め方	①各グループでディスカッション(35分程度) ②グループごとに発表(1グループ3分程度)

テーマ




ワークショップ全体のテーマとして、
「県内ものづくり企業を大学生の皆さんに知ってもらうためには」と設定し、さらにグループごとに異なる小テーマを設定することで、議論を深めました。

■各グループのテーマ



グループ1	企業説明会等の就活イベントをより良くするために
グループ2	インターンシップに参加したい・したくない企業の特徴
グループ3	学生側が知りたい情報と企業側が伝えたい魅力の違い
グループ4	就職に係る親の影響や関与
グループ5	就職したい・したくない企業
グループ6	企業・学生が考える理想の働き方
グループ7	県外で就職した場合、県内に戻りたいと思うか

各グループのディスカッション内容

グループ1



テ ー マ	企業説明会等の就活イベントをより良くするために
 意見まとめ	<ul style="list-style-type: none">就活イベントで学生が感じる「<u>(企業に)試されている気がする</u>」という印象を払拭することが有効な手立てであり、その手段として、例えば<u>イベントの様子を動画配信</u>することで、こうした状況を打破できるのではないか。
 その他の意見	<ul style="list-style-type: none">大学では3年生のインターンシップが主流。学生の選択肢を増やすため、企業と連携して様々な取組を行っている。合同説明会等で学生がブースに来ないという企業側の課題は、解決が難しい。
 今永先生コメント	<ul style="list-style-type: none">就活イベントで企業から採用を意識した評価をされると学生としては抵抗感があり、また評価されると話しくなくなります。この状況を打破するには全員でどうすべきか、共通認識の形成まで踏み込めるとより良いでしょう。

グループ2



テ ー マ	インターンシップに参加したい・したくない企業の特徴
 意見まとめ	<ul style="list-style-type: none">【学生】明るい雰囲気を感じられる企業は魅力的。例えば、季節ごとのイベントを行っている、趣味が公開されている、社員の交流があるなど。【学生】コミュニケーションが取れる職場環境であることが分かると、インターンシップに参加したいと思う。<u>社内イベント情報の公表や、社内の雰囲気が伝わるよう学生と企業の交流の場を作っていく必要がある。</u>現状、企業に行ってみないと雰囲気が分からない状態。<u>外部から社内の雰囲気を把握できる環境づくりが必要。</u>
 今永先生コメント	<ul style="list-style-type: none">楽しく話すこともできない企業で働きたいかという、もちろん嫌です。仕事に真剣に取り組むモードもありますが、まずは普段通りの気楽さ・楽しさを出していただき、その様子が受け入れてもらえるような状態になっていくと良いのではないのでしょうか。

各グループのディスカッション内容

グループ3

テ　　マ	学生側が知りたい情報と企業側が伝えたい魅力の違い
意見まとめ 	<ul style="list-style-type: none">学生が知りたいことは主に2つ。 ①<u>自分がやりたいこと(=自己発見・自己理解)</u> ②福利厚生や職場環境企業が学生に伝えたいことは、職場環境や仕事内容、福利厚生、設備、業界の立ち位置など多岐にわたる。現状は、学生が「自分のやりたいこと」を見つけられない状態。 <u>このギャップを埋めるため、企業がセミナーやインターンシップを行うことが有効</u>であり、積極的に開催する必要がある。
今永先生 コメント 	<ul style="list-style-type: none">学生と企業は異なる存在であり、求めるものには違いがあります。その中でも、手法的な話か、接し方のテクニックか、重なるところはあるはずです。お互いに自分たちができることで接していけば、いずれ歩み寄りできるようになるでしょう。

グループ4

テ　　マ	就職に係る親の影響や関与
意見まとめ 	<ul style="list-style-type: none">【学生】進学タイミングで「自分のやりたいこと」を親に説明することがあり、就活時に親からアドバイスをもらうこともあるものの、直接の影響や関与は少ない。一方で、<u>親の職種や会社が就職に影響する可能性</u>はある。【企業】「子供には自分のやりたいことを大切にしてほしい」という思いがあり、<u>目指すべきは「自分の子供が就職して入ってほしいと思う企業」</u>であること。<u>インターンシップを含む就活イベントで「自分のやりたいこと」を見極め</u>、親に説明し、納得してもらうことで、(学生の本意にも反するような)就職に係る過度な親の介入や影響を減らすことができる。
今永先生 コメント 	<ul style="list-style-type: none">学生からすると、親に決めてもらうか自分で決断するかで考えがちですが、親に限らず親戚、兄弟、学校の先生、友達、企業で親しくなった人など、様々な人と関わり相談しながら、自分らしいキャリア、選択肢をうまく育てることができれば、より良い選択をするために、多くの人から学んでほしいです。

各グループのディスカッション内容

グループ5

テ ー マ	就職したい・したくない企業
意見まとめ	<ul style="list-style-type: none">学生多くは、人間関係や福利厚生といった企業の核となる部分を重視して就職を決めたいと考えている。一概に定義することは難しいが、自分の未来を見据え、10年、20年後の目標を置いた上で、その目標に向けた選択をするに適した企業に就職することが重要。
その他の意見	<ul style="list-style-type: none">企業から、従業員は単なる友人とは異なるため、健全なコミュニケーションとは何かという提起があった。
今永先生コメント	<ul style="list-style-type: none">異なる立場の人たちが本音で対話する中で、結論よりも、そのプロセスの中で見えてくることから気づきを得ることが重要になるでしょう。

グループ6

テ ー マ	企業・学生が考える理想の働き方
意見まとめ	<ul style="list-style-type: none">【学生】福利厚生の充実は重視している。例えば休暇制度があっても使える環境が整っていないと意味がない。【学生】自分を成長させ、会社の戦力となることができるサポートや研修制度があると良い。【学生】社内イベントで親睦を深め、気軽に相談できる環境がある企業で働きたい。【企業】自分のために働くことが自己成長につながる。得意なことこそすべき。また、困ったときに助けを求められるようにすることが大事。入社後の各種制度が充実しており、かつ安心して制度を利用できることを若手社員に対して発信することを第一にすべき。そこから企業のビジョンを伝えていく流れがあれば、良い働き方ができるのでは。
今永先生コメント	<ul style="list-style-type: none">入社時とギャップが大きいほど離職は早くなります。現実感を持って、会社で1年目、2年目と働くことを想像できる状態にすることが大事です。働くとは何かを考える中で、学生の意見は実現不可能に見えることもあるかもしれませんが、時代に応じて歩み寄り・譲らない点を整理し変化し続ける企業は人気があり、人材も定着する印象を受けます。ぜひ、この内容を社内でも議論し深めてほしいです。

各グループのディスカッション内容

グループ7

テ　　マ	県外で就職した場合、県内に戻りたいと思うか
<div data-bbox="118 694 308 735">意見まとめ</div> <div data-bbox="107 814 258 948"></div>	<ul style="list-style-type: none">• 【学生】新たな場所への進出や新たな人との出会い・発見を求めている人は県外就職。実家から近いところで就職したいという思いがある人は県内に残りやすい。• 【学生】生活コストや人付き合いがうまくいかなかった場合は、県内に戻りたくなるだろう。• 【企業】県内には先進的な研究に取り組む大学が多く、産学連携しやすい環境にあり、県内に残るメリットはある。• 県外で得た環境やつながりを捨てる判断は難しいが、県内へ戻りたいと思ったときに、(卒業後であっても)<u>大学のキャリアセンターを活用できると知ること、県内企業が転職サイトを十分活用し発信すること、インターンシップへ参加するハードルを下げる</u>ことが、有効な手段になるのではないかと。
<div data-bbox="118 1087 308 1170">今永先生 コメント</div> <div data-bbox="107 1125 301 1259"></div>	<ul style="list-style-type: none">• 企業と学生で立場は違えど、宮城県で働いている、宮城県の大学に通っているという共通点があります。自社・自分の良さは自身では分かりづらく、感覚が麻痺しがちです。改めて、宮城県で働くことや地域の良さ、プライベートと仕事のバランス、趣味も含めて考えていただきながら、良い形を作っていける風土ができると良いですね。